

★:上映後トーク

2日 金	11:00~12:32 (92分)	13:15~15:08 (113分)	15:30~17:32 (122分)	18:00~19:54 (114分)
	チェチェンへ アレクサンドラの旅	運命は踊る	カティンの森	沖縄スパイ戦史 ★三上智恵監督
3日 土	10:10~12:20 (128分)	13:15~15:15 (120分)	16:10~18:11 (121分)	19:00~20:32 (65分)
	ひめゆりの塔 ★香川京子さん(予定) 俳優	ウンタマギルー ★高嶺剛監督(予定)	アルジェの戦い ★古賀太 日本大学芸術学部映画学科教授	狼火は上海に揚る
4日 日	10:10~11:34 (84分)	12:30~14:11 (101分)	15:00~16:46 (108分)	17:30~20:33 (182分)
	半島の春 ★下川正晴さん 『日本統治下の朝鮮シネマ群像』著者	アイダよ、何処へ? ★安田菜津紀さん 認定NPO法人Dialogue for People副代表/ フォトジャーナリスト	あの旗を撃て コレヒドールの最後 ★志村三代子 日本大学芸術学部映画学科教授	地獄の黙示録 ファイナルカット
5日 月	11:00~13:22 (142分)	13:45~15:58 (133分)	16:45~18:38 (113分)	19:00~20:32 (92分)
	ブリキの太鼓	高地戦	運命は踊る	チェチェンへ アレクサンドラの旅
6日 火	11:00~12:54 (114分)	13:30~15:40 (128分)	16:00~18:00 (120分)	18:30~20:32 (122分)
	沖縄スパイ戦史	ひめゆりの塔	ウンタマギルー	カティンの森
7日 水	11:00~12:32 (65分)	13:00~14:46 (106分)	15:15~17:16 (122分)	17:40~20:02 (142分)
	狼火は上海に揚る	あの旗を撃て コレヒドールの最後	アルジェの戦い	ブリキの太鼓 ★渋谷哲也さん 日本大学文理学部教授/ドイツ映画
8日 木	10:45~14:48 (182分)	14:05~15:29 (84分)	15:45~17:26 (101分)	17:45~19:58 (133分)
	地獄の黙示録 ファイナルカット	半島の春	アイダよ、何処へ?	高地戦 ★寺脇研さん 映画評論家/映画プロデューサー

COMMENT

加藤陽子

東京大学文学部教授

「領土と戦争」をテーマとし、1940年代から2020年代製作の映画を全地球規模の地域から選んでしまった企画魂に脱帽する。支配される側の身体と精神をどう捉え、いかに表現しているかが映画の見所の1つだろうが、たとえば戦前期の日本の大日本帝国憲法は、海外への領土の拡張を前提にして書かれてはいなかった。法の埒外の異境と戦争が斬り結ぶ時、映画が切り取れるものは何だったのか。全部を観てみたい。

林真理子

作家・日本大学理事長

ロシアのウクライナ侵攻、台湾問題など、遠い歴史のかなたにあったはずの戦争が、これほど近くに来ていることに驚いている。そうした目で、過去の戦争映画の名作を観ることはとても重要なことだ。あの時、私はどのように戦争をとらえていたのか、自問する機会を与えてもらうことになるだろう。

四方田犬彦

映画研究

なんだい、リュミエール先生。話が違うじゃないか。映画は国境を越えて、世界中の不思議をたちどころに見せてくれるはずじゃなかったのかい。どうして国境ごとに別々の映画が作られ、国境のおかげでひどい目に遭った人たちのことを描いてきたのだろう。人間を幸福にするはずの映画はどうして人間の悲惨にばかり囚われてきたのだろう。

2022
12.2 Fri - 12.8 Thu



前売り券: 1回券(一般・学生ともに) ¥900 / 3回券(一般・学生ともに) ¥2,100
当日券: 1回券一般 ¥1,300 / 学生・会員・シニア ¥1,100 / 3回券 ¥2,850
※開場はそれぞれ上映開始10~15分前です。※各曜日最初の上映開始30分前より、その日の座席指定券と引き替え/当日券の販売を開始します。※劇場窓口では3日前から座席指定券が購入できます。※ユーロスペース劇場HPでは3日前~各回開始1時間前まで座席指定券が購入できます(各種クレジットカードのみ、詳しくはユーロスペース劇場HPをご確認ください)。※オンライン予約は自動発券機で座席指定券をお受け取りください。上映時間前には混雑が予想されます。お早めにお引き換えください。※前売り券は3日前より劇場窓口にて座席指定券とお引き換えできます。オンラインでのご利用はできません。※やむを得ない事情により作品、上映素材、及び上映時間が変更になる場合がございます。※製作から長い月日が経っている、またはフィルムが欠損しているため、お見苦しい箇所やお聞き苦しい箇所がございます。※トークショーのある上映回は予告編の上映はございません。※トークショーは変更・中止となる場合がございます。



現役日藝生による映画祭

領土と戦争

この土地は、誰のもの？

- 半島の春
- 狼火は上海に揚る
- あの旗を撃て コレヒドールの最後
- ひめゆりの塔
- アルジェの戦い
- 地獄の黙示録 ファイナルカット
- ブリキの太鼓
- ウンタマギルー
- チェチェンへ アレクサンドラの旅
- カティンの森
- 高地戦
- 運命は踊る
- 沖縄スパイ戦史
- アイダよ、何処へ?

2022 12.2 Fri - 12.8 Thu

領土と戦争

今年で12回目となる日藝生企画・運営の映画祭。

2022年2月24日、世界は一変した。ロシアが突如、ウクライナに軍事侵攻を始めたからだ。それから穀物や鉱物資源の価格は高騰し、世界的な物価高が引き起こされるなど、コロナ禍の影響から抜けきれなかった世界はさらに混乱を極めた。日本も世界と同じようにこの問題による経済的な影響を受けているが、我々日本人にとってロシアが隣国へ攻め込み、その土地を占領している、という事実は対岸の火事ではない。なぜなら日本は現在も渦中のロシアをはじめとして、中国や韓国とも領土問題を抱えているからだ。加えて、今年5月15日には沖縄が米国から日本に返還されて50年という重要な節目を迎えた。我々日本人、そして世界の人々にとっても「領土」とは何なのか、これまで人々がそれぞれどう向き合ってきたかを、今一度考え直すべき時期ではないだろうか。

映画はいつも、その時代の世相、監督や観客たちの思いを表象してきた。『狼火は上海に揚る』(1944)のような国策映画で描かれるのは、当時の政府の意向を伝えるための都合の良い物語。戦後、監督たちは、『ひめゆりの塔』(1953)や『高地戦』(2011)のように戦時中の凄惨で救いのない状況を伝えた。我々は今回、領土問題を戦争という観点から捉えて14本の映画を選出した。スクリーンに映し出されるのは、人々の土地への誇り、権力者たちや資本主義の支配欲、そして製作者たちの思い。この映画祭で上映する古今東西の映画を通じて、戦争、そして領土について改めて考えてもらえたら嬉しい。この映画祭が開催される12月には、ウクライナの状況が少しでも改善されていることを祈りながら。

半島の春

李炳逸(イ・ビョンイル)/1941年/韓国/
35mm→デジタル/84分/所蔵:韓国映像資料院



映画を愛する朝鮮の映画人たちの撮影現場を描いた、李炳逸監督のデビュー作。映画製作者の李英一(イ・ヨンイル)と映画俳優を夢見る金貞喜(キム・ジョンヒ)のすれ違うロマンスが、映画『春香伝』を製作する人々の苦労とともに描かれる。日本への愛憎半ばする状況で日本語と韓国語が入り混じり、半島映画社の設立式で内鮮一体が提唱されるなど、日本統治下の朝鮮をよく表している。日本による朝鮮映画令施行以降、初めて検閲に合格した朝鮮映画。韓国映像資料院より今回のために借用。

あの旗を撃て コレヒドールの最後

阿部豊/1944年/日本/35mm/108分/
配給:映画配給社→東宝



日本のコレヒドール攻略作戦を描いた国策映画。日本人及び現地人に対して、日本のフィリピン占領を正当化するために製作された。1941年、大日本帝国はアメリカが占有していたフィリピンに侵略を開始した。非情な態度を取り続けるアメリカ兵とは違い、身体の不自由な子どもや捕虜への気遣いを見せる日本兵と現地人たちの心のつながりを強調している。現地での撮影には米軍が残した戦車を利用され、本物の米軍捕虜を動員した。

アルジェの戦い

ジッロ・ポンテコルヴォ/1966年/
イタリヤ=アルジェリア/35mm→DCP/121分/
配給:松竹映配→コアポア・フィルム



ジャーナリストの経験からイタリアのポンテコルヴォ監督がアルジェリア戦争をドキュメンタリータッチで再現した作品。フランス統治下のアルジェリアで不良だったアリが独立運動の組織に入り指導者となるが、戦争が次第に激化し追い詰められていく。1966年のヴェネチア国際映画祭で金獅子賞を受賞したが、現地でフランス代表団は「反仏映画」と称しフランソワ・トリュフォーを除き全員退席した。第41回キネマ旬報ベストテン外国映画第1位。

狼火は上海に揚る

稲垣浩/1944年/日本=中国/35mm/
65分(欠落前92分)/配給:大映→KADOKAWA



1840~42年の阿片戦争から二十年、様々な人種が入り混じり動乱の世の上海を描いた稲垣浩監督の大作。1944年に公開された本作のフィルムは、戦後、旧満州からソ連に没収され、1990年代末にロシアから帰還した。日中合作であり、中国人だけでなく西洋人も多く出演している。上海という領土を巡るイギリス軍と太平天国軍との衝突を戦時下の日本に引きつけた内容である。高杉晋作を演じる阪東妻三郎の迫真の演技も必見。完全版ではなく1巻目が欠落。

ひめゆりの塔

今井正/1953年/日本/35mm/128分/配給:東映



日本最大の地上戦となった沖縄で、特志看護婦として動員された女学生「ひめゆり学徒隊」を描いた、今井正の名作。当時の沖縄は米軍の占領下にあったため、現地ロケはおろか彼女たちの日常や具体的な出来事を調べることもさへ困難だった。戦後わずか8年で製作された本作は、彼女たちの献身的な活動と追い詰められて散っていく悲惨な戦争の生々しさを伝える。第4回ブルーリボン賞で監督賞、企画賞を受賞。脚本の水木洋子は第1回菊池寛賞を受賞。

地獄の黙示録 ファイナルカット

フランス=フォード・コッポラ/1979年→2019年/アメリカ/
DCP/182分/配給:日本ヘラルド映画→KADOKAWA



巨匠フランシス・フォード・コッポラによる戦争映画の金字塔。ベトナム戦争末期、ウィラード大尉(マーティン・シーン)は軍の命令を無視して行動するカーツ大佐(マーロン・ブランド)の暗殺指令を受ける。そこで彼は戦場の狂気と凄惨な現状を目の当たりにするのだった。公開40周年を記念して監督自ら再編集し、デジタル修復を行ったファイナルカット版を上映。第32回カンヌ国際映画祭パルム・ドール、第52回アカデミー賞撮影、音響賞受賞。

ブリキの太鼓

フォルカー・ジュゼンドルフ/
1979年/西ドイツ=フランス/
35mm→デジタル/142分/
配給:フランス映画社→ワールドワークス



ノーベル賞作家グンター・グラスによる同名小説が原作で、ドイツのシュレンドルフ監督の代表作。ダンツィヒ(現ポーランドのグダニスク)で3歳の誕生日にブリキの太鼓をプレゼントされたオスカルは、大人の姿に幻滅してしまったことから自ら成長することを止め、とある超能力を手にする。ナチスに支配された都市で子供のままでい続けるオスカルは一体何を思うのか。カンヌ国際映画祭パルム・ドール賞、アカデミー外国語映画賞を受賞。

チェチェンへ アレクサンドラの旅

アレクサンドル・ソクーロフ/2007年/ロシア=フランス/
35mm/92分/配給:パンドラ



舞台は第二次チェチェン紛争さなかのチェチェン共和国にあるロシア軍駐屯基地。オペラ歌手のガリーナ・ヴィシネフスカヤが演じるアレクサンドラは将校である孫のデニスに会いにやってくる。彼女は兵士やその周りに暮らすチェチェン人たちと触れ合っていく。実際の駐屯地で撮影された本作には戦闘シーンは一切ない。ロシアの巨匠、ソクーロフ監督がチェチェン訪問のリアルな映像を通じて戦争の意味を訴える。第60回カンヌ国際映画祭コンペ出品。

高地戦

チャン・ファン/2011年/韓国/
デジタル/133分/配給:ツイン



朝鮮戦争における南北の極限の戦いを描いたチャン・ファン監督の代表作。朝鮮戦争末期、韓国諜報隊のカン中尉は、内通者がいるとされるワニ中隊を探るため、最前線のエロック高地へ派遣される。彼はそこで数年前に生き別れとなっていた親友のスヒョクと出会う。思わぬ再会を果たしたのも束の間、兵士たちの前に立ちただかるのは無情な現実だった。第48回大鐘賞最優秀作品賞、第20回釜日映画賞最優秀作品賞、第32回青龍映画賞撮影賞受賞ほか。

沖縄 スパイ戦史

三上智恵、大矢英代/2018年/日本/DCP/
114分/配給:東風



三上智恵と大矢英代が共同監督として、沖縄戦におけるスパイ戦やゲリラ戦の真相を探る衝撃のドキュメンタリー。第二次世界大戦末期の沖縄でゲリラ戦を展開する護郷隊を指揮したのは、陸軍中野学校出身のエリート青年将校たちだった。沖縄の住民を巻き込んだ秘密戦はどのような悲劇を生み、現代にどのような影響をもたらしているのか。第92回キネマ旬報ベスト・テン文化映画第1位、令和元年度文化庁映画賞文化記録映画優秀賞受賞ほか。

ウンタマギルー

高橋剛/1989年/日本/35mm/120分/
配給:PARCO



日本復帰直前で揺れる沖縄を舞台に、沖縄語で展開されるファンタジー映画。製糖所で働く平凡な男、ギルーは、親方の養女マレーと情交にふけていたことが親方にばれ、運玉森へと逃げ込む。ひょんなことから超能力を授かり、貧しい人々を助けたために沖縄中の人気者になるギルー。しかし親方はギルーへの復讐を企んでいた。キネマ旬報ベストテン第4位。ベルリン国際映画祭カリガリ賞、日本映画監督協会新人賞ほか。全編日本語字幕付き。

カティンの森

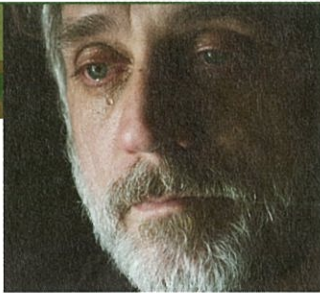
アンジェイ・ワイダ/2007年/ポーランド/
35mm→デジタル/122分/
配給:アルバトロス・フィルム→TVP



1943年に多数のポーランド将校の遺体が発見された「カティンの森事件」を元に、ポーランドの巨匠アンジェイ・ワイダ監督が手がけた傑作。1939年、ドイツ軍の侵攻から逃れる人々と、ソ連軍の侵攻から逃れる人々がブク川の橋の上で出くわした。アンジェイ大尉は妻・娘の目の前で仲間のイエジとともにソ連軍の捕虜となってしまふ。第80回アカデミー賞外国語映画賞ノミネート。日本での権利が切れていたが、ポーランドの権利元と交渉し上映が実現。

運命は踊る

サミュエル・マオズ/2017年/
イスラエル=ドイツ=フランス=スイス/DCP/113分/
配給:ピタース・エンド



サミュエル・マオズ監督の実体験を元に戦争が日常化した現代のイスラエルを舞台とした家族のドラマ。ミハエル、ダフナ夫妻は軍の役人から息子ヨナタンが戦死した報せを受ける。事実を受け入れられず、悲しみに打ちひしがれる2人だが、その報せは全くの誤報だったと分かる。ミハエルは激昂し、失態を犯した軍へヨナタンの即刻帰宅を要請したことから家族の運命が交錯しすれ違う。第74回ヴェネチア国際映画祭で審査員グランプリ(銀獅子賞)。

アイダよ、何処へ?

ヤヌズ・コッポラ/2020年/
オーストリア=ルーマニア=ハンガリー=イギリス=フランス=ルーマニア=ドイツ/
DCP/101分/配給:アル・バトロス・フィルム



故郷ボスニアの紛争による傷跡を描き続けるジュバニッチ監督の平和の脆さと命の尊さを訴えかける傑作。セルビア人勢力に侵攻された町、スレブレニツァで国連保護軍の通訳として働くアイダは、殺到する二万人の避難民と、セルビア勢力に弱腰な国連軍との間で翻弄されながらも、愛する夫と息子の命を守ろうと死力を尽くす。戦後最悪と言われるスレブレニツァの大虐殺の真実を生々しく描く一作。第93回アカデミー賞国際長編映画賞にノミネート。